

令和5年度第1回江田島市総合教育会議 議事録

令和5年11月20日(月)、江田島市役所4階会議室において、令和5年度第1回江田島市総合教育会議を開催しました。

1 開会及び閉会に関する事項

開会 午後2時00分

閉会 午後3時45分

2 出席者

(1) 構成員

市長	明 岳 周 作
教育委員会教育長	岡 田 學
教育委員会教育長職務代理者	三 島 雅 司
教育委員会委員	長 坂 睦 子
教育委員会委員	小宇根 康 典
教育委員会委員	長 迫 香

(2) 関係者(教育委員会事務局)

教育部長	山 井 法 男
学校教育課長	黒 小 大 介
生涯学習課長	江 郷 洋 子
学校給食共同調理場総括場長	仁 井 雄 一
大柿自然環境体験学習交流館長	西 原 直 久

(3) 総合教育会議事務局

総務課長	越 野 竜
総務課 総務係 主任	名 越 太 樹

3 傍聴人

なし

4 議事日程

- (1) 議事録に署名する者の決定について
- (2) 報告第1号 令和5年度江田島市教育委員会経営計画(中間評価)について
- (3) 報告第2号 学校統合の取組について
- (4) 報告第3号 さとうみ学習コーディネーターによる「さとうみ学習」カリキュラムの構築について
- (5) 報告第4号 学校図書館リニューアルについて
- (6) その他

5 議事の概要

○ 越野総務課長

それでは、定刻になりましたので、ただいまから令和5年度第1回江田島市総合教育会議を開催いたします。

現在出席されている構成員の皆様は、6名でございます。

本日の議事日程は、資料1のとおりでございます。

なお、本日の会議には、構成員の皆様にご出席いただいているほか、教育委員会事務局の職員5名、総合教育会議事務局の職員2名が出席をしています。

出席者の紹介は、資料2に代えさせていただきます。

なお、本日、奥田総務部長が、体調不良により急きょ欠席となっておりますので、よろしく申し上げます。

それでは、開会に当たり、明岳市長から御挨拶を頂きます。よろしく申し上げます。

○ 明岳市長

はい、それでは失礼いたします。

改めまして、皆さんこんにちは。

本日は、大変お忙しいところ、令和5年度総合教育会議に御参集いただき誠にありがとうございます。

この会議は、皆さんも御承知のとおり、予算の執行や条例の設置、改正等を所管する市長と、教育委員会の委員の皆様と、江田島市の教育について、相互連携、意見交換をしながら、教育環境を整えていくものであります。

それぞれの立場による思いや今までの人生経験等を踏まえ、江田島市の教育をどうすれば良くなるかであるなど、きたんのない御意見を賜りたいと思います。

短い時間になるかと思いますが、どうぞよろしく申し上げます。

○ 越野総務課長

ありがとうございました。

これからの議事進行は明岳市長にお願いしたいと思います。

よろしく申し上げます。

○ 明岳市長

それでは、私が議事を進めさせていただきます。

本日の会議は、公開となっておりますが、傍聴の申込みはございませんでした。

それでは、議事に入らせていただきます。

次第の(1)、議事録に署名する者の決定についてでございます。

これは、江田島市総合教育会議運営規程第14条第2項の規定によりまして、私と共に、議事録に署名する方を決定させていただきます。

この件については、平成27年7月21日に開催いたしました、平成27年度第1回江田島市総合教育会議において、申合せがされており、資料2の名簿の構成員の下段からの順番になっています。

今回は、小宇根委員にお願いしたいと思います。

よろしいでしょうか。

○ 小宇根教育委員会委員

はい。

○ **明岳市長**

よろしく申し上げます。

そして、江田島市総合教育会議運営規程第14条第1項の規定によりまして、議事録を作成する者には、総務課の名越主任を指名いたします。

それでは、次の議事に入らせていただきます。

報告第1号の令和5年度江田島市教育委員会経営計画（中間評価）についてでございます。

内容については、岡田教育長に説明を求めます。

よろしく申し上げます。

○ **岡田教育委員会教育長**

はい、それでは失礼いたします。

資料4に提案理由を書かせていただいています。地方教育行政の組織及び実施運営に関する法律第26条の規定によりまして、今年度の江田島市教育委員会経営計画（中間評価）を実施させていただきました。

別冊の1ページに一覧表を、2ページ以降に目標ごとの点検評価表をお示ししています。

この点検評価表を基にして、ここまでの状況について、学校教育課長、生涯学習課長、さとうみ科学館長が詳しく説明させていただきます。

よろしく申し上げます。

○ **明岳市長**

それでは、順によろしく申し上げます。黒小学校教育課長から申し上げます。

○ **黒小学校教育課長**

それでは、資料4の1ページ、令和5年度江田島市教育委員会経営計画（中間評価）について、簡単に報告させていただきます。

まず、学校教育課分についてですが、中期経営目標を知・徳・体の育成に向けた「主体的・対話的で深い学び」の実現としています。

また、「知」の育成に係る短期経営目標を個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図るとして、二つの評価指標を掲げています。

一つ目は、「主体的な学び」が定着している児童生徒の割合としています。これは、授業では自分の考えを積極的に伝えている、課題を解決するために進んで資料を集めたりしているなどという項目となっておりますが、小中学校ともに80パーセント以上となるよう取り組んでいます。

二つ目は、江田島市小中学校学力調査の各教科の平均正答率の合計が目標値の合計を上回った学年の数としており、全ての学年において、各教科の平均正答率の合計が目標値の合計を上回るよう取り組んでいます。

具体的には、教務主任及び研究主任研修において、児童生徒の実態に応じ、学力定着に向けた授業改善を図るよう指導助言を行ったり、校長会及び教頭会において、令和5年度全国学力・学習状況調査の市の結果を提示し、授業改善に向けた組織的な取組について指導助言を行うなどしています。

また、個別最適な学びと協働的な学びの実践を深めるために、外部講師を招へいする

など、研修の機会を設けています。そのほかにも、県内、県外の先進校視察、そしてその普及にも努めています。

なお、今年度の学力調査の実施時期は、令和5年12月を予定しているため、中間評価の時点では、成果となる数値を掲載していません。今後も継続的な指導助言を行ってまいります。

続いて、「徳」の育成に係る短期経営目標は、道德教育、人権教育の充実を図るとしてしています。

そして、評価指標を自己実現力・自己有用感がある児童生徒の割合としてしています。これは、自分には良いところがあるなどという項目となっていますが、小学校85パーセント以上、中学校75パーセント以上となるよう取り組んでいます。

具体的には、豊かな体験、例えば集団宿泊活動や職場体験活動、ボランティア活動を充実させ、児童生徒の道德性が養われるよう働き掛けたり、道德教育の推進に取り組んでいます。先日も三高小中学校で道德教育に関する研究会を実施し、市内全ての小中学校から教員が参加し、道德教育の在り方について考える機会を持ちました。

続いて、「体」の育成に係る短期目標では、運動習慣の確立に向けた取組の充実を図るとしてしています。

そして、評価指標を「運動やスポーツが好き」と答える児童生徒の割合としており、小学校5年生の男女90パーセント以上、中学校2年生の男子90パーセント、女子80パーセント以上となるよう取り組んでいます。

具体的には、各学校では、江田島市の特色を生かしたSUPなどのマリンスポーツやプロスポーツ選手を招へいしての運動教室などを開催しました。体を動かす楽しさを感じられる取組を行っており、引き続き、生涯に渡って運動に親しむ基盤を育てていけるよう、体育科を中心としながら取り組んでまいります。

もう一つの中期経営目標の安全・安心な学校づくりの推進については、短期経営目標を教職員による不祥事ゼロを継続するとし、懲戒処分の件数を評価指標として取り組んでいます。

具体的には、校長会、教頭・事務長会において、服務規律の確保に関する講話を繰り返し行うとともに、教育課程の確実な実施のためのチェックリストを活用しながら、不祥事防止に向けた取組を強化し、進捗状況を適宜確認するなどの取組を行っています。

中間評価とはなりますが、現時点では、懲戒処分件数は0件となっています。

学校教育課分の説明については、以上となります。

○ 明岳市長

ありがとうございます。

続いてお願いします。

○ 江郷生涯学習課長

続いて、生涯学習課から3点ございます。

一つ目の中期経営目標は、魅力ある事業づくりを推進するとし、短期経営目標を実施事業に対する満足度の向上を図るとしてしています。

評価指標は、実施事業に対する満足度とし、令和5年度の目標値は、満足度5点満点中の4.47点としています。

今年度、具体的に行う事業としては、灘尾弘吉没後30年及び早瀬大橋開通50周年特別展、ふるさと江田島歴史講座、江田島市美術展、人権学習講演会、こちらの四つの事業でアンケートを実施し、満足度をみてまいります。

この四つの事業については、下半期に完了する事業となっているため、実績値を掲載していません。

続いて、二つ目の中期経営目標は、健康づくり、体力づくりを推進するとし、短期経営目標を公共スポーツ施設の利用促進を図るとしてしています。

評価指標は、人口1人当たりのスポーツセンター及び総合運動公園の利用回数とし、令和5年度の目標値は、スポーツセンター1.39回、総合運動公園0.67回としています。

実績については、4月から9月末までの実績値で、スポーツセンター0.72回、総合運動公園0.32回となっており、年間目標のおおむね半数に近い数字を得ています。また、今年の5月8日に新型コロナウイルス感染症が5類感染症となった関係からと推察されますが、昨年同日と比較しても利用者が増加しています。

続いて、三つ目の中期経営目標は、図書館の充実を図るとし、短期経営目標を図書館年間貸出冊数及び来館者数の増加を図るとしてしています。

評価指標は、人口1人当たりの年間貸出冊数及び年間来館回数とし、令和5年度の目標値は、年間貸出冊数3.37冊、年間来館回数1.49回としています。

半期の実績は、年間貸出冊数1.98冊、年間来館回数0.98回となっており、こちらにおいても、目標値の半数を得ています。

図書館の事業内容としては、江田島しましまスタンプラリー、子ども司書の養成講座、読書貯金通帳などを実施しています。

新しく始めた館員朗読サービスについても、市内の公共施設等にチラシを備置きしたり、ホームページや広報に掲載するなどして、広報の強化に努めています。

また、昨年11月に大柿図書室がリニューアルオープンしたことにより、貸出冊数も来館者数も増加しています。

生涯学習課分については、以上でございます。

○ 明岳市長

ありがとうございます。

続いてお願いします。

○ 西原大柿自然環境体験学習交流館長

続いて、里海教育についてでございます。

中期経営目標を「里海」を教育資源とした特色ある教育の推進、短期経営目標をさとうみ科学館の利用者の増加を図るとし、評価指標を来館者数及び事業参加者数としています。

今年度の目標値は、来館者数3,000人、事業参加者数8,300人としています。この目標値は、コロナ禍前の平成30年度を基準に設定しています。

資料9ページを御覧ください。

2の取組・方策でございます。具体的な取組として、3点ございます。

一つ目は、ここ数年行っているものとなりますが、休日開館の実施でございます。今年度は、月2回、第2・第4土曜日を試験的に開館しています。その際、クイズラリー形式の館内見学プログラムを実施し、リピーターを増やしながら、館内見学を楽しんでいただくようにしています。

二つ目は、主催事業・支援事業の工夫でございます。主催事業に関しては、さとうみサイエンスキャンプ、こちらを全3回の講座制とし、試行錯誤しながら、自分たちの目標にチャレンジしていくというスタイルを採らせていただきました。また、コロナ禍から対策が緩和され、全小学校へのクラブ活動支援や市内外からの施設見学も増加傾向にあります。

三つ目は、市広報、マスメディア等を活用し、引き続きPR強化を図りながら、さとうみ科学館の存在を知っていただき、利用していただき、事業の内容を深く学んでいただき、そこから次につなげるPRもしてまいります。

中間評価でございますが、来館者数2,017人、事業参加者数2,862人となっています。来館者数に関しては、平成30年度同日実績1,478人を上回っていますが、令和4年度同日実績2,150人を下回っています。また、事業参加者数に関しては、平成30年度同日実績、令和4年度同日実績を下回っている状況です。令和5年度の事業数は、コロナ対策の緩和により増加傾向にあり、コロナ禍以前の事業数と変わらないものの、全校児童・生徒を対象とした事業が減り、学年ごとなど小規模での支援が増えてきています。そのため、事業数に比べると事業参加者数が減少している状況です。

下半期からもPR活動を行いながら、特別展等の来館事業の充実や主催・共催・支援事業の工夫を行うことで、目標値に近づけたいと考えています。

以上で説明を終わります。

○ 明岳市長

ありがとうございます。

ただいま、報告第1号の令和5年度江田島市教育委員会の経営計画（中間評価）について、それぞれ課長から説明を受けました。

学校教育の面で言えば、教職員による不祥事をゼロにすることが、最近気になっています。他自治体の事案が、マスコミや新聞等で報道されていますが、万が一江田島市でもそのようなことが起きた場合、江田島市の教育全体に影響を及ぼす気がしています。しかし、そういう状況の中において、教職員による不祥事がゼロというのは、ありがたいことです。対策として、校長会、教頭・事務長会において、服務規律の確保に関する講話を毎月行っていると聞いています。これは、これからも大事にして、徹底をしていかなければいけないと思っています。

それから、生涯学習についても目標どおりできていると思っています。

今年は、灘尾弘吉先生の没後30年、早瀬大橋開通50周年ということで、良い企画をしていただきました。私も見させていただいて、多くの市民の皆様にも見ていただきたいと思っています。そのための工夫として、防災行政無線などでPRをしていかなければいけないと思っています。

里海教育については、まず、さとうみ科学館の存在を市民の皆様にはもちろん、市外の方にも知っていただいて、目標であるリニューアルオープンに向けた動きをしていかないといけないと思っています。

さとうみ科学館を利用された多くの方にファンになっていただき、「江田島らしい教育であり、さとうみ教育について熱く語っていただいた。ほかの市町にはない。」などという御意見を耳にします。本当に素晴らしいことであると思っています。

それでは、報告第1号について、皆さんの御意見をそれぞれ伺いたいと思います。

本当に何でも結構ですので、おっしゃっていただけたらと思います。

長迫委員。

○ 長迫教育委員会委員

里海についてですが、私が小さい頃は、こどもたちだけで海で遊ぶことが当たり前でしたが、今は小学校の校則により、こどもだけでは、海に行くことができません。海は危なく、何があるか分からないので、仕方がないことであるとは思いますが。しかし、海の生き物は、環境や地域によって見られるものが違ったりします。一緒に遊び、学び、そういう場があるのはすごくありがたいことでした。

さとうみ科学館のリニューアルオープンのお話を聞かせていただいて、今後は、地域の人を含め、誰もが立ち寄れる施設になっても良いかなと思いました。

○ 明岳市長

ありがとうございます。

職員が、リニューアルオープンの基本計画を作成し、それを議会に諮ったことがあります。

そのときは、美能の岸根の開発、中町の宿泊施設について、同じく諮っているときであったため、予算の関係もあり、賛同を得られませんでした。リニューアルオープンについても、予算規模の大きい事業となりますので、これからしっかり考えていきたいと思っています。

○ 明岳市長

長坂委員ありますか。

○ 長坂教育委員会委員

小学校では、マリンアドベンチャーやさとうみ学習があると思います。しかし、こども園では、さとうみ学習がないのが残念です。園児は、自分で注意を払うことが難しく、先生の引率の関係もあり、さとうみ学習を行うことが難しいのかなとも思います。

これは、移住されて来られた方の意見であると思うのですが、自然の中で教育を学ぶことが、若い世代で移住の決め手の一つになり得るということを耳にしました。

さとうみ科学館のリニューアルオープンについて、私も夫とこどもと一緒にさとうみ科学館に行きましたが、内容はすごく良いけど、少し古いと感じました。リニューアルオープンで新しくなれば、若い人も足を運ぶようになると思います。是非、リニューアルオープンよろしくをお願いします。

○ 明岳市長

ありがとうございます。

認定こども園えたじまでは、浜辺に降りて、遊ばせたりもしています。しかし、市内全体では、さとうみ学習が浸透していないのかもしれませんが。

○ **長坂教育委員会委員**

こどもがマリアドベンチャーをしたおかげで、江田島にはこんな魚がいて、名前はこうであると教えてくれます。興味のある子は、自ら進んでやってみようと思いますし、興味のない子もそういう教育を受けることによって、知識を身に付けることはすごく有意義であると思いました。

○ **明岳市長**

そうですね。ありがとうございます。

小宇根委員どうでしょうか。

○ **小宇根教育委員会委員**

学校教育で道徳教育、人権教育の充実を図る、自己実現力、自己有用感に着目しておられます。

長い間、目標や指標は、不登校児童・生徒をゼロにするなどでした。その前は、自尊心や自己肯定感という言葉で表されていたと思います。しかし、それで終わるのではなく、それを基本としながら、自己実現力、自己有用感を目指していくことは、すごく大事なことであると思います。

このことについては、さとうみ学習においても言えることであると思いますので、今からどのように伸びていくのか、すごく期待しています。

○ **明岳市長**

ありがとうございます。

さとうみ教育について、後ほど説明があるかと思います。

三島委員どうでしょうか。

○ **三島教育委員会教育長職務代理者**

皆さんおっしゃったので、付け加えるようなことはありませんが、学校教育にしても、生涯学習にしても、一生懸命やっておられる印象を受けます。特に、スポーツ運動のことに関しては、コロナの関係で体力が落ちたという報告もあつたりしたと思うのですが、今日の報告を聞くと、回復していると思いました。

それから、魅力ある事業の関係では、ギリシャ博もあつたと思います。あのようなものを企画され、江田島を海外に向けてPRしていることは、すごいと思います。

あと、私自身も健康づくりでスポーツセンターを利用したいと思うのですが、なかなか行けておりません。思い切って行ってみようとなっていないので、何かきっかけがあればと思ったりすることはあります。

さとうみ学習は、皆さんがおっしゃったとおり、もっと充実していかないといけないと思っています。後ほど話があると思うのですが、今年は、コーディネーターによるカリキュラム化に取り組んでいるので、更なる内容の充実とそれをフォローアップする人的配置など、そういうことも考えていく必要があるのではないかと考えています。

○ **明岳市長**

ありがとうございます。

教育長どうでしょうか。

○ 岡田教育委員会教育長

学校教育については、7月に全国学力状況調査の結果が出て、中学校3年生が厳しい状況であったことを受け、いろいろ取組を進めてきているところです。

今日は、教育委員会委員の皆さんに三高中学校を見ていただきました。10月、11月で各学校の様子を見ていただき、しっかり学習しているという実感を持っていただき、私もそう思いました。

全国学力状況調査の結果については、厳しかったですが、学ぶ姿勢であったり、自分には良いところがあるといったところを高める、そういう学習態度は、身に付いていると思います。

どの学校も江田島のどこが良い、どこが今後良くなってほしいといったように、江田島のことを真剣に考えており、これが児童・生徒の学力につながっていくと思っています。

それを支えるために、12月の市の学力調査を評価の材料とし、指導の中身を作り上げることに使いながら、引き続き、頑張っていきたいと思っています。

生涯学習については、なかなか外から見えなかった部分ですが、私も教育長をやらせていただいて感じることは、それぞれが自分の役割、いろいろな工夫、アイデアを出し、どうすれば市民の皆様に来ていただけるだろうか、どのように伝えていくべきであるかということを考えながらやっているように思うことです。

そういう中で、灘尾弘吉没後30年及び早瀬大橋開通50周年など開催しているわけですが、なかなか建物自体が入りにくい状況であったりするので、どのように集約、あるいは広げていくかということも考えなければならないと思っています。

さとうみ学習については、皆さんおっしゃったとおりで、是非、市民の皆様から館全体をリニューアルしてほしいという意見が出てくるように頑張っていく必要があると思っていますので、引き続き、応援をよろしくお願いします。

○ 明岳市長

ありがとうございました。

それでは、各委員さんから御意見を頂きました。

他に御意見なければ、次の議事に入らせていただきたいと思います。

よろしいでしょうか。

それでは、報告第2号の学校統合の取組について、議題に入らせていただきます。

岡田教育長、説明をお願いします。

○ 岡田教育委員会教育長

資料5により、報告させていただきます。

これは、御承知のとおり、平成21年6月の学校統合検討委員会の第2次答申により、進めています。三高中学校の能美中学校への統合の取組の進捗状況について、報告させていただきます。

現状は、なかなか厳しいところがありますが、それを報告させていただいて、今後の取組について、一定の方向性を持ちたいと思っていますので、よろしくお願いします。

詳細については、課長が説明します。

○ 明岳市長

それでは、お願いします。

○ 黒小学校教育課長

資料5の10ページ、学校統合の取組について、報告させていただきます。

1には、三高中学校統合に係る説明会等の経過を表にしています。先ほども教育長が申し上げましたとおり、平成21年6月に学校統合検討委員会が、市長に第2次答申を提出し、その後、約14年が経過し、能美中学校の校舎が完成してからも約9年の期間が経過しています。今年度も5月、7月にPTA役員や地域代表との協議を行いました。代表の方は、「毎年、自分たちは、教育委員会から統合の話を地域でさせてほしいと言われ、懇話会を行ってきたが、今年度は、話し合いをする気はない。」との考えを示されました。PTA役員や地域代表の方の意見としましては、これまで、「三高中学校だけでなく、4中学校もしくは3中学校の統合を考えるべきではないのか。」といった考えや「中学校を耐震化しない以上、耐震化されている小学校への移転をお願いしたいという要望を出してきたにも関わらず、前向きな新しい提案がない、そのような状態では、話し合いは行わない。」というものでした。

「私どもとしましては、そういった話し合いができないというのは困ります。小学校にも新しい保護者が入っているわけですから、毎年となったとしても、全ての保護者に教育委員会からの考えを示したい。また、説明のためのリーフレット等の資料も配付させていただきたい。」とお願いさせていただいたのですが、合意を得ることはできませんでした。

また、三高小中学校のPTA役員の方は、「今年度は、小学校と中学校の保護者で話し合いをしっかりとっていくので、教育委員会の説明や資料は必要ない。」ということを言われています。実際、10月の小学校PTA運営委員会では、小学校のPTA役員に対し、中学校のPTA会長が話をされたと聞いています。また、11月にも同様に、小学校PTA運営委員会で役員同士が話をされると聞いています。地域や保護者全体にまで対象を広げて、統合に関する話し合いなどが行われているかどうかについては、把握しておりません。

私どもとしましては、PTAの要望どおり、年内は説明会などの開催は行わない代わりに、PTAの話し合いの進捗状況を教えていただくため、11月には正副長会又はそれに準ずる会を開催する旨をお願いしておりましたが、いまだにその会も実現できていないのが現状です。

なお、11ページの2には、三高中学校の今後の生徒数の推移を表で示しています。御覧のとおり、令和6年度には、現在、三高小学校に在籍する児童が全員進学した場合には、1年生が通常学級において12人となるものの、2年生、3年生に女子がいない状況となります。また、令和8年度にも12人が入学予定であります。7年度の入学生徒は4人の予定であり、他学年では5人以下という状況や、極端な男女比率のクラスが生じる可能性があります。

小学校の場合は、複式の制度もありますし、1年生から6年生という6学年分が学校内にいますので、学校のにぎわいというのは作ることができます。

しかしながら、中学校は3学年しかありません。当然ながら全校の人数も、小学校の半分の人数になります。さらに、いろいろな事情があって、三高中学校に進学しない者

も出てきます。そのような中で、幼児期や小学校期の身近な世界から少しずつ世界を広げ、多様な他者を知り、社会性を広げながら、協働していく力を身に付けていくとなると、現状の三高中学校の規模は、教育環境としてふさわしいとは考えておりません。やはり、中学校は、ある一定以上の人数規模で学ぶべきであると考えています。同年代との対話的な学びは、学習指導要領でも求められています。

また、ここにおられる皆様も一様に中学校の思い出があると思いますが、中学校生活の思い出は、学習場面だけではないはずです。それよりも、むしろ、様々な学校行事であるとか、部活動、仲間との日常、多様な人が集まる環境だからこそその出会いやトラブル、頼れる先輩や怖かった先輩の存在など、多感な時期に過ごした多くの同年代との時間の方が思い出として残り、個人の価値観によって違いはあるものの、それが何かしらのその後の生き方の糧になっている場合もあるかと思えます。

確かに、学校は、地域にとって精神的支柱の一つであると言える存在であります。地域にあるものを残したいという思いも分かります。

しかし、それ以上に私たちが考えなければならないのは、学校はこどもの学習の場であるということです。十分な環境を整えていくことを最優先事項として、保護者や地域の方へ、今後も強く統合を働き掛けていきたいと考えています。

教育委員会としては、3にもありますように、第2次答申を尊重し、三高地区の中学生のより良い教育環境を図る観点から、必要に応じて市の関係課とも連携をして説明会などを実施し、保護者や地域の方に合意していただけるよう取り組んでまいりたいと思います。三高小中学校PTAの方の思いを受け止めながら、丁寧な説明に努めてまいります。

しかしながら、このままズルズルと先延ばしにしていくことも良いとは思っていません。教育委員会としては、教育環境の改善、集団教育活動の制約を解消するために、生徒数が極端に少なくなるまでには統合したいと考え、目標年度を令和7年度としています。可能であれば、統合の前年までには、覚書を締結したいというのが思いです。

なお、12ページ及び13ページには、今年度、PTAや地域の方に配付させていただきたいとお伝えしている資料の一部を添付しています。

説明については、以上となります。

○ 明岳市長

ありがとうございます。

学校統合の問題は、総合教育会議でもずっと話し合いをさせていただいています。私が、平成28年12月5日に市長に就任したのですが、翌年、総合教育会議を開き、耐震補強する設計の予算を計上するかどうかという協議があり、委員の皆さんにお話を伺いました。やはり、皆さん統合すべきであると。中学校の多感な時期に多くの生徒の中で過ごし、協議したり、いろいろな人の意見を聞いたりするというようなことが成長できると私も思っていますので、従前答申が出たとおりにするべきであると思えます。

また、耐震化されていないわけですから、親御さんも心配されておられます。耐震化され、環境面も整備されている能美中学校へ行ってもらうべきであると思えます。

だから、もう一度、地域の方へ話に行きましょうということが、平成29年からの動きであります。

しかし、あれから7年が経過しましたが、反対される方が三高中学校のPTA会長・副会長になられています。そして、地域の自治会長も反対されているため、覚書を締結していただくということは、今の状況からすると非常に難しいです。

今年度、三高中学校に入学予定であった4人中3人が、能美中学校に行っています。反対をされているPTA会長さんのこどもさんも能美中学校に行かれています。この状況を踏まえ、地域の方は考えてくれるであろうと思いましたが、そうはいきませんでした。

私は、本当に不安であるし、こどもたちを犠牲にしていると思います。先ほどの話で懇談会を開催しないであるとか資料を保護者の方に配ることも駄目であるとか、こういう論法でこられたら、ずっとこの状況が続き、希望者だけが能美中学校に行く、行けるのだからそれでいいではないかというようなことで終わってしまうのではないかと思います。

来年度は、2年生と3年生に女子がいません。女子校、男子校というのがありますが、中学校という社会の縮図、公立校として、我々の教育の目的である社会的に自立でき、協力し合い、いろいろなことを学ぶことができるような教育環境にしたいので、再来年にやり遂げたいと思っています。

先日、全員協議会を開催し、三高中学校の統合について、8人の方に意見をおっしゃっていただきました。ほとんどの方は、能美中学校に行くべきであるという御意見でした。しかし、その前提には、地域の方と話をし、合意を得られてからということがありますが、これが難しいです。

尾道市は、統合について、地域の方の合意が得られない中で、市議会の議決、判断をしていただき、統合を進めていますので、そろそろ、江田島市もそういう判断をするべきであると、少し思っています。

皆さんにもこの統合については、きたんのない意見をおっしゃっていただけたらと思います。

三島委員どうでしょうか。

○ 三島教育委員会教育長職務代理者

基本的には、皆さん統合した方がこどものためには良いのではないかと考えていると思います。

やはり、今までの統合説明会の経緯を見ると、地域の方が反対、保護者の方も反対、しかし、全員が反対しているのかということまでは、分かっていないところではありますが、合意を得られていないということが現実あります。今のままで議会に提案したときに、賛成が得られるかどうかというのは、分からないところであると思います。そうになると、地域の方は、反対であるけど仕方ないというようなある程度の気持ちの変化となるものがなければ、今のまま、議会に諮ったとしてもどうかなというのは気にしていません。

今までも、説明会の中で地域の方の合意を得ながら、進めていくと話もしていますので、先ほど耐震化の話もありましたが、耐震化を理由にして、これまでの話合いをなかったことにするのかという感情になると思います。

そうなると、議会では、地域の方の合意を得てからという話なので、現状では、難しいかなと思います。

ただし、先ほど説明があったように、目標は設定する必要があると思います。先延ばしとなり、統合がいつになるのか分からないというのは、良くないと思います。統合の目標年度を令和7年度に設定することは良いことであると思います。

私の勝手な想像であります。議会でも、ほとんどの方が、今のままでは駄目であるという思いを持っていらっしゃると思います。説得するという言い方はおかしいですが、統合に賛成されていない方に対し、どうやって賛成していただくかということが大事であると思います。

一般的なことしか申し上げられないのですが、議会に諮るまでが、ものすごい大変であると思います。令和7年度に統合することになれば、遅くとも令和6年9月、10月頃には、議会に諮る必要があると思いますから。

○ **明岳市長**

そうですね。

小宇根委員どうでしょうか。

○ **小宇根教育委員会委員**

やはり、こどもの姿を見ると、このままではいけないというのがよく分かります。他校と三高中学校を比べたら、もっと思います。

三高の子たちには、頑張れる力があるし、素直で努力家です。そういうこどもたちをもう少し大人数の中で、しっかり多様性に触れさせてみたり、社会性を培わせてみたり、意見を交わさせてみたりして、成長させてあげたいと思います。

意見発表会において、三高小学校、三高中学校から多様性を求め、能美中学校に行ったこどもが、ものすごい苦労したけど、すばらしい経験をしたと言われていましたけど、確かにそうであると思いました。

○ **明岳市長**

ありがとうございます。

長坂委員どうでしょうか。

○ **長坂教育委員会委員**

皆さんがおっしゃたようなことですが、私も三高中学校や他校の研究授業などを見させていただいて、違いがはっきり出ていると感じました。やはり、多様性が育ちにくいということは、課題としてあります。議会においても、こども主体でということもありましたし、こどもたちから能美中学校に行きたいと言ってもらえるような策がないのか、いろいろ考えてみる余地はあるかと思っています。

停滞するわけにはいきませんので、市長がおっしゃられたように、他の自治体において、難航している統合がどのようになっているのか情報を入れてもいいかと思っています。

○ **明岳市長**

そうですね。

長迫委員何かありますか。

○ **長迫教育委員会委員**

今日、三高中学校の様子を見させていただいて、同級生の子が少ないので、議論やコミュニケーション能力に心配な面もあるかなと思いました。

先生もこの子なら発表を当ててあげた方が良くなど、小規模だからそれぞれの子の特徴を分かっておられます。しかし、それが1クラスに何十人もとなったら、自分から手を上げないと当ててもらえないので、競い合うなどそういう面では、大きい学校の方が伸びると感じました。

私のこどもが能美中学校に通っていて、中学校1年生になるときに、「緊張する、どうしよう。」と言ってました。でも、第一歩を頑張ったら、「誰々が話しかけてくれた。」と言っており、そういうことを聞いたらすごいと思いました。私のこどもが、三高から来ている子に声を掛けたら、「その子が声を掛けてもらえて嬉しかったと言ってた。」と耳にしました。その子も能美中学校に来てよかったと思えただろうと思います。

地域の特色も全て拾い上げるような学校になれば良いと思います。

○ **明岳市長**

そうですね。ありがとうございます。

岡田教育長。

○ **岡田教育委員会教育長**

先ほど、今年度の教育委員会の経営計画、中間評価をしまして、学校教育で3本、柱が立っていますが、この3本をやっていく上で、規模が小さいからという理由により、達成できない、その結果、こどもたちが育ち切らないということがあります。そのハードルを外してあげれば、三高の子は、ぐっと伸びていくと思います。

やはり、少しでも早く統合を進めていくべきであると思っているので、目標年度については、しっかり肝に銘じて取り組んでいきたいと思っています。

ただ、保護者、地域の方の合意を得られないということがあります。三島委員がおっしゃったように、こどもたちや保護者の方がどのような思いを持って、三高中学校に行く、能美中学校に行くなど、そういう状況を見られたときに皆さん仕方ないよと思ってくださるのかなと思います。

我々がいくら意を尽くして話をしても、そこが見えない限りは難しいので、小学生の保護者の方にしっかり話をしていきたいと思っています。

また、合意を得るとい形もあると思いますが、意を尽くしたけど話を聞いていただけなかったものの、私たちの思いは伝えることができたという時期が来ると思います。覚書も非常に大事です。大事であるということを理解した上で、責任を持って、対応すべきであると思っています。最後まで御協力いただけるとありがたいです。

○ **明岳市長**

ありがとうございます。

私は、教育行政に関わったことはないですが、用地交渉のような土地の関係で地権者の方と話をして、解決に導いたことがあります。とにかく最初は反対されます。何度も何度も足を運んでも「帰れ。」と言われる中で、ようやく仕方がないとなります。私は、それをできていないことが1番の課題であると思っています。

教育委員会、教職員の考え方、どういう思いで三高中学校を能美中学校へ統合させていただきたいということが保護者の方に伝わっていないと思います。それをなぜできないのかとなると、先ほどの話に戻ると思います。

P T A役員の方に「話し合えません。」と断ち切られるから保護者の方に説明もできません。なぜ統合しないといけないのかという教育委員会の考え方のパンフレットもP T A役員の方がいるから配れません。これは、異常な感じがしています。

しかし、P T A役員の方がそのように言うから配ることができないままでいいのかということが片方にあり、教育行政としてしっかりやりなさいということがもう片方にあります。ここが難しいです。

先日、議会においても、「なぜ配れないのかが分からない。」という声がありました。こちらの立場としては、P T A役員の方が「配ってはならない。」と言われるから配れません。三高は、難しいところという話をどなたかから聞いたことがあります。

しかし、これではいけません。結局、全部子どもたちにしわ寄せがくることが心配で、それをもう解放してあげたいです。5人のクラスの友達と20人を超えるクラスの友達では、全然違います。いろいろ意見があったり、気に入る人、気に入らない人もいたり、いじめもあるかもしれません。でも、また別な出会いやいろいろな子の考え方、多様性など、そういうものに触れることができると思います。私の子どもも小さな小学校に通っていました。マイナスの部分分かっているからこそ早くしてあげたいと思います。

先ほど、黒小課長から説明がありましたが、11月にP T A役員会が開かれて、議論があるわけですから、それらを踏まえ、「申し訳ないのですが、個々に保護者の方に説明させてもらえませんか。」ということは何となくいいのではないかと思います。本当にずっとこのままです。いずれ、4中学校をどうするのかという課題も来ます。あと10年すれば、また人口が5,000人減ります。昭和40年代の江田島小学校は、児童650人くらいいたのが、今は209人と3分の1になりました。いずれはしないとはいけませんが、まずは一つずつやっていかないといけないということが私の思いです。今は、理解を求めていこうという姿勢でいます。

この件については、終了させていただきます。

それでは、報告第3号のさとうみ学習コーディネーターによるさとうみ学習カリキュラムの構築でございます。

これについては、教育長から説明をお願いします。

○ 岡田教育委員会教育長

それでは、資料6に提案理由を書いています。今年度から新規事業、重点事業として進めているさとうみ学習コーディネーターによるさとうみ学習カリキュラムの構築について、その内容を報告させていただきます。さとうみ科学館の事業の際も話がありましたが、本市の特色ある教育の一つとして、今後大きく、広く展開をしていく、そういう思いの内容でございます。報告させていただきます。

詳しくは、学校教育課長が説明します。

○ 黒小学校教育課長

それでは、16ページを御覧ください。さとうみ学習コーディネーターによるさとうみ学習カリキュラムの構築について、説明させていただきます。

まず、前提の話となりますが、江田島市教育委員会では、これまで、さとうみ科学館のコーディネートにより毎年行われるマリンアドベンチャーや、海辺の生き物に関する出前授業によって、海辺の生き物などの自然領域に関する学習を充実させてまいりました。また、各学校においても、毎年、ふるさとに関する探究活動や海にまつわる学習教材やプログラムを各教科の学習の中で展開してきました。

これらの取組によって、江田島市内のこどもたちに共通する学習として、海辺の生き物の観察を推進、充実させることができた一方で、扱う領域は、主に、自然科学領域や環境保全のみの内容となっていたという現状があります。

しかし、江田島市の財産である里海には、まだまだたくさんの学習材としての価値があります。カキ養殖やイワシ網漁などに代表される水産業や海洋土木といった産業の領域、源平の合戦や太平洋戦争に関連する歴史の領域、そして、人々を楽しませるSUPや海遊びといったアクティビティの領域など、様々な教育資源としての可能性を秘めています。

もちろん、これまでもこういった題材が取り上げられていなかったわけではありませんが、学校ごとに取組の差が大きいという現状や海でのフィールドワーク、体験活動など、全身で江田島の海を感じ、愛着を深め、学ぶという経験が乏しいという課題もありました。

時代の変化もあり、江田島に住むこどもたちも、知識としては地元の海の魅力を知っているけれど、実際には、あまり触れたことがない、行ったことがない、遊んだことがないという、島に住むこどもでありながら、海との距離が遠くなってきている状況が起きています。

このような状況を打破し、ふるさと江田島をこれまで以上に理解し、愛着を高めるとともに、里海を守ろうとする想いを育むために、江田島市教育委員会では、市内全ての小中学校で学ぶコア・カリキュラム、さとうみ学習の構築を進めたいと考えています。そこで登用したのが、さとうみ学習コーディネーターです。

3のさとうみ学習コーディネーターの登用について、御覧ください。

コーディネーターとして登用しているのは、余島 純という者です。任用期間は、令和5年4月1日から令和6年3月31日までを予定しています。勤務日数は、原則、週2日、勤務時間は、週16時間となっています。経歴については、資料を御覧ください。

4の主な活動状況を御覧ください。今年度の活動状況を掲載しています。

続いて、5の今後の展開を御覧ください。今年度は、さとうみ学習の定義など理念構築を進めながら、各学校における現状の取組の整理等を行っています。また、取組の様子などを発信するとともに、新しい単元を開発する学校については、アドバイスをしたり、関係する人物や団体を紹介するなどのコーディネートを行っています。

現在は、次年度以降の各学校におけるカリキュラムにさとうみ学習を位置付けるよう提案する準備をしています。2月には各学校に発信できるよう取り組んでまいります。

来年度以降は、これまで行ってきたマリンアドベンチャーに加え、全ての学校で取り組む体験活動を構築するとともに、各学校には、独自のさとうみ学習カリキュラムを構築し、実践していただきます。また、さとうみコーディネーターは、各学校の「さとうみ学習」の取組状況の把握、情報発信を行い、実践事例集の編さんを行います。

そして、それらを基に、令和7年度以降は、共通理念の下、各学校において自分たちでさとうみ学習を進められるように準備を進めたいと考えています。

なお、18ページには、さとうみ学習に関する現時点での考え方をまとめたリーフレットを添付しています。さらに20ページ及び21ページには、今年度各学校で取り組まれているさとうみに関する実践事例をまとめて掲載しています。御覧のとおり、積極的に取り組んでいる学校もあれば、取組状況としては少ない学校もあります。先ほども申し上げましたが、市全体としての統一した理念の下、江田島ならではの教育が展開され、全てのこどもたちが海に関わる共通体験ができるようにするとともに、各学校独自のさとうみ学習が展開、充実されるよう進めてまいります。

説明は、以上となります。

○ 明岳市長

ありがとうございます。

コーディネーターの余島さんとは、まだお会いしたことがなくて、活動の状況が見えないというものなのですが、今あるマリンアドベンチャーにプラスして海の教育などを付加していくイメージですか。それにより、こどもたちに海の生き物などに関心を高め、江田島の海、自然を知る、江田島の歴史を語れる大人を目指していただきたいです。

私も江田島生まれですが、海の生き物、植物の知識がものすごい苦手です。だから、語ることができません。市長となって、今は少し語れるのですが、江田島のかきは有名で生産量が日本一、どうやって作るのかと言われても、学生時代、社会人のときは語ることができませんでした。それが非常に寂しいです。

このさとうみ教育を浸透させて、海に関わっておくことで、江田島の人は話が語れるようになると思います。そういう人になっていただきたいという願望がすごくあります。素晴らしい教育であると思います。これらが浸透して、江田島を誇りに思ってもらえることが教育の根幹でないかと思います。是非、やっていきたいと思います。

これについて、御意見をお願いします。

小宇根委員。

○ 小宇根教育委員会委員

体験から入ることは、すごく大切であり、まず海から始め、江田島を好きになるために、江田島の良さにたっぷり浸っていただくことが大事であると思います。

今、さとうみ学習について聞いた限りでは、まず、海からやっていくのだろうと思います。ただ、これで終わってはいけないと思います。海から始めて、ふるさと学習にいろいろ発展させ、つなげていくべきであると思います。

江田島を好きになると、江田島のみんなが幸せになるようなことを考えてくれます。小中学校の段階では、大きな課題は解決できませんが、まず、江田島のみんなが幸せになるためには、自分は何ができるか考えます。これをまとめて言えば、地域貢献であると思います。

先日、能美中学校の研究授業を見させていただいて、総合的な学習において、1年生から3年生までのキーワードとして、地域貢献がありました。その活動の中で、こどもたちが今まで聞いたことがないような素晴らしい活動をしていました。

そういうことをこの海から始めて、いろいろなことに発展してもらえたらと思います。その中心にさとうみ科学館があります。ここが充実しなければ、これは進められません。すでに充実しているのですが、これをもう一つ進めて、リニューアルオープンについても、うまくいけばいいと思います。

うまくいけば、さとうみ科学館から江田島のことをいろいろ発信できるし、教育の充実を図ることができます。そして、江田島の活動を知った市外の方が参加してくださるようなことにつながる、そのような可能性を持った活動ではないかと思います。

○ **明岳市長**

ありがとうございます。

三島委員どうでしょうか。

○ **三島教育委員会教育長職務代理者**

全ておっしゃっていただいたのですが、先ほどの続きになります。

直接関係ないかもしれませんが、さとうみ科学館を認知してもらうとなると、土日休みということが、少しネックになってるのではないかと思います。さとうみ科学館に行こうと思うけど、休みだから行けないという話があったりします。土日の開館に向けて、何か良い方法がないかなと思います。手助けしてくれる人を雇うことも一つの方法ではないかと思います。お金がかかることなので、簡単ではありませんが、何か変えていく必要があると思います。今は土曜日開館を月2回やっています。土日に開館して、PRしたり、そこで勉強してもらうことが大切ではないかと思います。

○ **明岳市長**

ありがとうございます。

岡田教育長。

○ **岡田教育委員会教育長**

来年は、さとうみ科学館の持続可能な発展を目指して、学芸員を1人、職員として採用していただくということで、今選考しているところです。そういうことも活用しながら、是非、良い方向に進めていきたいと思います。

○ **明岳市長**

そうですね。本当に充実させていかないといけません。

それでは、次の議題に移ります。

報告第4号の学校図書館リニューアルについて、教育長よろしくお願いします。

○ **岡田教育委員会教育長**

それでは、資料7、先ほど報告しました第3号と同様に今年度から進めている重点事業の一つ、学校図書館リニューアルについて、その内容を御報告させていただきます。

本年は、2校、一部1校について、リニューアルを実施しています。今後も力強く進めてまいりたいと考えていますので、これまでの報告と同様に一緒にやっていただければと思います。

内容は、学校教育課長が説明します。

○ **黒小学校教育課長**

それでは、資料7の22ページを御覧ください。

1の事業の目的を御覧ください。学校図書館の利活用の推進のため、学校図書館のリ

リニューアルを行い、児童生徒の本に対する親しみの醸成と読解力の育成を図るとして
います。

2の事業内容を御覧ください。重点推進校を選定し、専門的な知見を持つコーディネ
ーターのプロデュースによる図書館のリニューアル、図書の更新を行います。

3の令和5年度重点推進校を御覧ください。今年度は、中町小学校、大古小学校、能
美中学校で行っています。なお、大古小学校に関しては、令和5年度は、学校図書館シ
ステムの導入と新規図書の購入のみとし、備品等の購入は、令和6年度以降に行う予定
としています。

今回、この学校図書館リニューアルを行うに当たり、専門的知見を持った方にコーデ
ィネーターとして月1回程度、学校にお越しいただき、アドバイスをいただいています。

4を御覧ください。コーディネーターは、元広島県立図書館副館長の正井 さゆり様
です。江田島市在住の方です。

今年度の主な活動状況は、5にある通りです。

なお、重点推進校における日常的な学校図書館リニューアル作業については、県の支
援を受けまして、学校の推進に係る専門人材加配として措置された学校図書館支援員が
中心となって、学校図書館担当教諭と連携しながら行っています。

6と7を御覧ください。江田島市教育委員会としましては、引き続き、市内全ての学
校において、学校図書館のリニューアルを進めたいと考えています。令和6年度以降の
事業費については、資料にお示ししているとおりとなります。

なお、学校図書館のリニューアルに係る様子については、より詳しいものを次のペー
ジの24ページに資料として添付しています。

最初に教職員を対象にしたオリエンテーションから始まり、現状把握を行い、古い本
の廃棄、新しい本をどのような考え方でどういう割合で買っていくのかを検討した後、
いろいろなより良い本を選ぶということを県立図書館に協力を求めながら進めてまい
りました。

また、今まで手書きで行っていた蔵書管理などについて、システムを導入して、こど
もたちのパソコンからも図書館の本が探せるというような仕組みを構築しているところ
です。

現在は、レイアウトを変えまして、備品などが入れれば完成というところまで来ました。
年度内には、完成できるものとして、進めているところです。

説明については、以上です。

○ 明岳市長

ありがとうございました。

遅ればせながら、江田島市においても、こういったことに取り組むといった状況です。
古い本がたくさんあり、今の時流に合わないであるとか、何か考え方が違うなど、そ
ういった本があったそうです。今の正しい考え方の良い本を入れていこうということで、
子育て環境を整備する一番大事なことでありますので、できるだけ全小中学校でやって
いきたいと思えます。

この件に関して、委員さんから御意見を頂きたいと思えます。

長坂委員。

○ **長坂教育委員会委員**

読解力は、すごく大事です。今の高校2年生が大学受験するときには内容が大きく変わるので、問題文の文字数が現行のものから1.5倍に増えると言われています。国語だけでなく、英語にしても、数学にしても、全科目において、読み込む力というのが大事になって、読み込めないと問題も解けません。とにかく国語なのです。やはり、小さいときから読書、活字に慣れ親しんでおくことがすごく大事であると思います。

中学生や高校生になると、スマートフォンもあるし、忙しくてなかなか好きだった本でさえも少し遠ざかってしまいます。だから、小学生のうちに読書習慣を付けてあげたいと思います。

大古小学校の図書室は、明るく、配置も見やすくなり、ソファがあったり、じゅうたんがあったり、すごくきれいになっています。やはり、こどももきれい、可愛いというのが好きなので、まずは図書室に足を運んで、本を手にとってほしいです。心も豊かになるし、世界も広がります。まず、こどもたちが、図書室に行ってみたい、本読もうかなと思える環境を整えてあげることも大事であると思います。

他の学校にも、それがどんどん広がっていけば良いと思います。

○ **明岳市長**

ありがとうございます。

長迫委員何かありますか。

○ **長迫教育委員会委員**

先日、女性委員の視察で福山のともに学園と想青学園を見学させていただいたのですが、どちらの図書館も居心地の良い空間づくりをしておられました。大古小学校の図書館と同じように、本に触れるために鍵をかけず、いつでも開いており、授業に出にくい子もそこであれば、座って本を開けます。そのような落ち着ける場所づくりはとても良いと思います。

○ **長坂教育委員会委員**

想青学園は、五つの学校が統合して、新しい学校になりました。だから、できたばかりの施設で、図書館も充実していて、ハイスペックパソコンや3Dプリンターなどもあったりしてびっくりしました。そういうものが身近にあれば、知的好奇心もくすぐられるのではないかと思います。

○ **明岳市長**

それらは、図書館に置いてあって、自由に使えるのですか。

○ **長迫教育委員会委員**

それらは、図書館とは別のところにあり、ユーチューブを撮影できそうなロールスクリーンやライト、プリンター、パソコンなどが集約された部屋にありました。

江田島市もこのような場所があればいいなと思いました。

○ **明岳市長**

今度行ってみないといけません。

小宇根委員。

○ **小宇根教育委員会委員**

小学校低学年と園児の孫がおりまして、江田島市内の図書館に連れて行くと、本を読み続けて帰りません。家で読ませたときはいい加減な時間で飽きるのですが。なぜだろうと思っていたのですが、おそらく、図書館が落ち着いて本を読むのに最適な環境なのだと思います。読み終わったら、次に読みたい本が目の前に見えるという環境がずっといたいと思わせるのだと感じます。

それを今、学校が創ろうとしているということは、大賛成です。大古小学校の図書館を見たときに、これから児童は帰らなくなるだろうなと思いました。

これらは、本を読む楽しさですが、もう一つ、本を資料として扱うということで、デューイという教育者の学校と社会という本において、理想の学校は、学校を中心に図書館があって、何か分からないこと、調べたいことがあったらすぐ図書館に行って調べられる、こういう理想の学校を考えているということを書いていることを思い出しました。図書館のリニューアルは大事であると思いますので、よろしくお願いします。

○ **明岳市長**

ありがとうございます。

三島委員どうでしょうか。

○ **三島教育委員会教育長職務代理者**

学校の図書館をリニューアルするということは、大賛成なのでやっていただきたいです。

しかし、環境が良くなり本が新しくなっても、そこに行くのは子どもたちです。子どもたちに行ってもらおう気持ちになるための仕掛けや教育を考えていく必要があると思います。今は、タブレットやパソコンでその場ですぐ調べられる環境がありますので、あえて図書館に行って、自分で本を開くという何かを考えていけないといけません。

私はもう高齢なので、予定を調べるときはパソコンやスマートフォンで調べるより手帳を開く方がよく分かりますが、今の子は必ずしもそうではありません。

しかし、今のところ活字を読んで答えなさいという問題がほとんどであると思うので、活字を目にする、そこに行くまでの仕掛け、子どもたちにそういう気持ちを起こさせる何かを考えないといけないと思います。

○ **明岳市長**

そうですね。先ほど、小宇根委員がおっしゃったお孫さんがずっと本を読み続ける、そういう環境を創れたらいいですね。

教育長どうでしょうか。

○ **岡田教育委員会教育長**

こういう良いものを今一生懸命創っていただいているのですが、問題は、今後も維持をしていかなければならないということです。図書というものは、お金がかかるもので、いつまでも新しいものではありませんし、どのように図書館を運営していくのが大事です。図書館司書という者がいて、図書館と学級の先生の授業を結んだりしながら、図書を上手に配置したり、子どもたちに勧めたり、そういう者の存在は非常に大事です。学校には、司書教諭という資格を持った者を配置しているのですが、あくまでも授業をしながらであるので、普段図書室に行くということにはなりません。

他市町では、1校に一人というのは難しいので、5校に一人として、1校ずつ回って、5校を見るであるとか、そのようにしているところもあります。今後は、そういう者の配置も考えていかないといけないと思います。

○ **明岳市長**

分かりました。

厳しい状況ではありますが、こどもの教育は大事なので、そういうことを考えていかないといけないと思います。

以上で本日の議事は終了となり、その他の項目ですが、今日、課長で発言がないのが仁井学校給食共同調理場統括場長です。学校給食はどうでしょうか。

○ **仁井学校給食共同調理場統括場長**

調理場を一つにしましたが、大きな問題はなく配送できています。

○ **明岳市長**

先日も三原が来年度から給食費を上げるという情報が出ていましたが、そこはどうでしょうか。

○ **仁井学校給食共同調理場統括場長**

確かに、食材費や輸送料など高騰していますが、今のところはなんとかやりくりしている状況です。

○ **明岳市長**

子育ての関係でコロナ交付金の補正予算が可決されます。いくらかは江田島市にも入るので、航路事業者や福祉関係の施設にも物価高騰のため支援するということも検討しています。

子育て世代への支援ということで、例えば、3月まで給食費を半分、いわゆる保護者分を無料にするとなった場合、どれくらいかかるのか、そういったことを検討してほしいと思います。

○ **仁井学校給食共同調理場統括場長**

はい、分かりました。

○ **明岳市長**

他にはよろしいですか。

○ **三島教育委員会教育長職務代理者**

今日、学校の給食を食べましたが、おいしかったです。

○ **明岳市長**

よかったです。

今日は、三高中学校の視察だったのですか。

○ **三島教育委員会教育長職務代理者**

はい。

○ **明岳市長**

そこでみんなと一緒に食事をするのですか。

○ **三島教育委員会教育長職務代理者**

はい。

スープも温かくて、冷めていなかったなので、おいしかったです。

- **明岳市長**
よかったです。
それでは、その他の事項で協議や調整、あるいは話しておきたいことはございますか。
何でも結構です。
- **長坂教育委員会委員**
想青学園のことで一つ思ったのですが、職員室を見学していたら、片隅に先生方がリラックスできるような小さいスペースがありました。そういうスペースがあったら、先生方も気を張らずに、悩みごとなども相談しやすいのではないかと思い、良いなと思いました。先生の精神状態が良くないと、こどもと向き合うことも難しいので、その辺りをケアしてあげたら良いのかなと思いました。
- **明岳市長**
それは、職員室の一角にあるのですか。
- **長坂教育委員会委員**
一角の片隅にあります。
- **明岳市長**
パーテーションなどをされているのですか。
- **長坂教育委員会委員**
パーテーションありません。死角になるところにあって、一息つける良いスペースでした。
- **明岳市長**
そうですか。
そういうスペースは、江田島市にもあるのですか。
- **小宇根教育委員会委員**
大古小学校には、予約室というのがあって、くつろぎたいときはそこに入って、外に出るとオープンなスペースなのですが、テーブルもあって、そこで話しながらお茶飲んだり、お菓子を食べたりする方もおられます。悩みなどはそこで話されます。そして、本当に悩んだときは校長室に来られます。
- **明岳市長**
今度、その辺りを教育長見ていただいて。
- **岡田教育委員会教育長**
そうですね。
教員のメンタル問題は、大事なので。本当にそこが悩みの種でもあります。
- **小宇根教育委員会委員**
今、休職されている方は何人くらいいらっしゃるのですか。
- **黒小学校教育課長**
3人です。
- **明岳市長**
それは、新年度入ってすぐにメンタルの問題で休まれているのですか。
- **岡田教育委員会教育長**

ある小学校の例で言えば、1学期までは大丈夫だったのですが、1学期の終わり頃から弱られて。

○ **明岳市長**

難しいですね。先生方は、本当に求められることがまた多くなっていますから。

○ **岡田教育委員会教育長**

でも、このように気を配ってくださっていることが伝わるといことも大事です。先生のことを心配しているということが実際に伝わっていけば、また頑張れるので。その一つに先ほどの一息つけるスペースがあるとか、各校の校長にはその辺り配慮してもらおうと思います。

○ **明岳市長**

そうですね。よろしくお願いします。

それでは、時間も迫っていますが、なければ本日の議題はこれで全て終了させていただきます。

本当にありがとうございました。

総務課長、お願いします。

○ **越野総務課長**

皆様、本日は、大変ありがとうございました。

次第で示しました全ての議題を終了いたしましたので、以上をもちまして、令和5年度第1回江田島市総合教育会議を終了いたします。

ありがとうございました。